

# ①柳井市古市金屋重要伝統的建造物群保存地区(白壁の町並み)

1984(昭和59)年に国選定。中世の町割がそのまま残されている。江戸時代から明治中期以前に建てられた本瓦葺や棧瓦葺の2階建てで、外壁や軒裏を白漆喰で塗り込めた土蔵造りの町家の特徴。最も基本的な建築構造形式は、入母屋造りの妻入りであり、切妻造りの妻入り、平入りも混在している。地区面積は国内では小規模だが、伝統的建造物が連続して残っているため、国内でも価値が高いとされている。



# ②金剛寺

平安時代後期の933(承平3)年慈海和尚が清泰院という庵を営んだのが始まり。1312(正和元)年、大内重弘が弘法大師遺跡を再興し、七堂伽藍及び十二坊を造営した。現在の寺名になったのは1695(元禄8)年。春分の日の大師縁日は有名。桜やモミジで美しい寺。



# ③茶臼山古墳

4世紀終わりから5世紀初めに造られた前方後円墳。全長約90mは県内では3番目に大きい。1892(明治25)年に発見され、その際発掘された単頭双胴怪獣鏡(大鏡)は直径44.8cmで、古墳から出土した鏡では日本で有数の大きさ。国の史跡に指定され、現在では「茶臼山古墳歴史の広場」となった。後円部頂部からの眺めがよく、資料館で出土品等を見学することもできる。



# ④琴石山

標高545.0mの山頂に登ると四方に視界が開け、山の南側は瀬戸内海や市街地が一望でき、北側は日積の盆地を見渡せる。昔は、一帯を防衛するための事能(ことよし)城があったといわれている。



# ⑤国木田独歩ゆかりの地

国木田独歩の作品「欺かざるの記」の「明治27年8月17日」に、次の記述がある。これは、岸ノ下(柳井港)から琴石山麓にかけて弟取二と散歩した生活の記録である。

昨夜岸の下に盆踊りありて、夜更けまで、村女達のはねくり廻るを見物したり、朝、忽ちにして午後、而して夜。此頃の一日は矢の如く空過す。

昨日午後一時少し前、取二と共に琴石山麓の山家点在せる邊りを散歩す。溪流に沿うて山路を辿り、松林に入りて山腹を横ぎる。サコンタを止めて水に浴し、路傍に沿うて菓を盗む。山寺に入りて僧の眠りを驚かし、犬に吠えられて笑って石を投げつく。田をめぐり、森を望み、遙かに海水の漂渺たるを眺めなどして、盛夏日中思ふまい、吾が愛する夏を楽しみたり。

～国木田独歩「欺かざるの記」より～



# ⑥黄幡神社

牛馬の神をまつる社。1831(天保2)年にはこの社があったとの記録が残っている。祭りは7月中旬と10月14日。ムクノキの大木がある。



# ⑦遍照院

真言宗の寺で、明治初期に創建。同時に新四国八十八箇所の霊場を開かれたことから、大島の大師堂として親しまれている。今日でも海難よけの本尊として信者が多い。

# ⑧善知神社

遍照院のさらに山奥を進むと、善知神社(ぜんちじんじや、妙見社)がある。創建年代不詳だが、江戸時代には社殿も壮麗で祭儀も盛大に行われていたという。



# やない美ゆーロードマップ

作成：柳井につぼん晴れ街道協議会

この地図は、柳井市長の承認を得て平成18年3月作成の柳井市都市計画図を使用したものである。(承認番号 平成29年5月9日指令柳都建第99号)